

第3回 阿弥陀仏ってどんな仏さまなの？

1 私たちは何に手を合わせているの？ 南無阿弥陀仏

浄土真宗の本堂やお内仏の中央に安置されているご本尊（本当に尊ぶべきもの・こと）は阿弥陀仏（阿弥陀さま）です。

第1回では、仏教は今からおよそ2500年前インド北部にお生まれになられたお釈迦さまにはじまることを学びました。

では、なぜご本尊は釈迦仏（お釈迦さま）ではないのでしょうか？

お釈迦さまは亡くなられる前に仏弟子に対して、お釈迦さま自身を頼りとし依存するのではなく、自ら（自己）と法（教説）をよりどころとして歩むことを教示されました。（じとうみょうほうとうみょう 自灯明法灯明 自らを灯明とし法を灯明とする）

そして、お釈迦さまがよるべき法として教説されたのが『仏説無量寿経』（大経）に表される阿弥陀仏です。

如来、世に興出したまうゆえは、ただ弥陀本願海を説かんとなり 『正信偈』

お釈迦さま（釈迦仏）も阿弥陀さま（阿弥陀仏）も、どちらも「仏」と呼ばれます。「仏」とは、ぶつだ かくしゃ 仏陀・覚者ともいい、真理に目覚めた者を意味します。

お釈迦さまも、真実の道理に目覚め、仏（如来）となりました。お釈迦さまは、自らも出遇われた阿弥陀仏の本願（真実のはたらき）によれと教えられているのです。

浄土真宗は一神教ではなく、「にそんぎょう 二尊教」であると言われます。

お釈迦さまと阿弥陀さま（二尊）は、同じ願いのもとに別々の役割を担われます。

お釈迦さま・・・きょうしゅ 教主（ぬし 教えの主）

お釈迦さまは、私たちの迷いのこの世にお生まれになり、阿弥陀さまの願いの世界である浄土をお示しになり、「ゆ 往け」と勧められます。（はつげん 釈迦の発遣）

阿弥陀さま・・・きゅうしゅ 救主（ぬし 救いの主）

阿弥陀さまは、浄土から「南無阿弥陀仏」のお念仏の声となって、「き 来たれ」と私たちを招き呼び続けてくださっています。（しょうかん 弥陀の招喚）



おんにがびやくどうのさく
「御二河白道之柵」棟方志功作

2 『大経』には何が説かれているの？

■ 真実の教

親鸞聖人が「真実の教」といって勧められた『仏説無量寿経』（大経）は、浄土真宗においてご法事場で勤められることもあり、真宗門徒の方なら聴かれたことがあるのではないかと思います。

では、『大経』はどのような経典で、何が説かれているのでしょうか？



『大経』は上下二巻からなる経典です。古代インドの言葉であるサンスクリット語（梵語）では「Sukhāvātī-vyūha」（スカーバティー・ビューハ）といい、「^{しょうごん}極楽の莊嚴」を意味します。

このお経は、^{おうしゃじょう}王舎城の^{ぎしゃくっせん}耆闍崛山において、ひときわ気高く輝き尊いお釈迦さまの姿に驚いた阿難の問いをきっかけとして説きはじめられます。

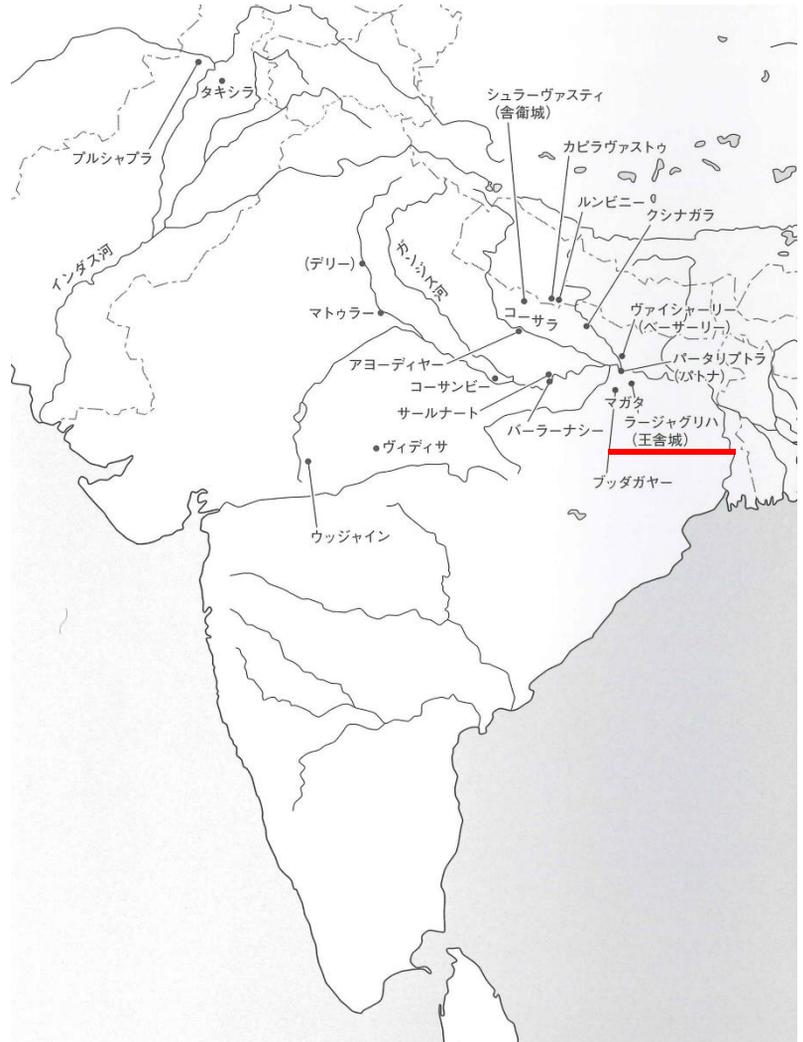
上巻

一人の国王が^{せじざいおうぶつ}世自在王仏と出遇い、^{ほうぞうぼさつ}法蔵菩薩となって本願をおこし、極楽浄土を建立するまでの発心と修行、浄土の莊嚴が表されています。法蔵菩薩がすべての人々を救う阿弥陀仏となられるありさまが物語として説かれています。

下巻

阿弥陀仏の願いが^{じょうじゆ}成就していることが説かれ、衆生は阿弥陀仏の本願を信じ、^{しゆじょう}念仏することにより往生が定まることが述べられています。

そして、将来すべての教えが滅びても、この経だけは残り人々を救い続けると説かれています。



3 本願って何だろう？

せつしゆふしや
攝取不捨

『大経』には阿弥陀仏の本願が説かれています。その本願とは、どのような願いなのでしょう？

本願は、菩薩が衆生を救済する仏となるためにおこした誓願を意味します。

『大経』では、法蔵菩薩の物語として表されています。



はるか昔、世自在王仏という仏さまがおられました。その時、一人の国王がおられました。国王は、世自在王仏に出会い、自らも仏となって世の人びとを悩み・苦しみから救いたいと願うようになられます。そして、国王の地位を棄てて、法蔵という名の菩薩（自らのさとりを求め、他を教化する者）となられたのです。

世自在王仏は、法蔵菩薩の求めに応じて、数多くの仏の浄土の成り立ちと、そこにいる人びとの善悪のありさまをつぶさにお示しになりました。

法蔵菩薩は、それらの浄土のありさまを拝見された後、五劫という途方もなく永い期間にわたって思惟を重ね、「どのような者であっても自分の浄土に掬め取って決して見捨てることはない」という、この上ない願い（本願）をおこされました。そして、その願いを48項目（四十八願）に分け、それが成就しないのであれば決して自らは仏にならないと誓われたのです。



阿弥陀仏は、法蔵菩薩の本願が成就し、仏となったお姿です。そして、阿弥陀仏は「南無阿弥陀仏」とわが名を称えなさいと呼びかけてくださっています。



この物語では、願いをおこし仏となるまでの阿弥陀仏の背景が語られています。そこには、どのような存在も掬め取り決して見捨てることのない深く広い願いが表されています。そしてその願いは、現にいまここにいる私たちにはたらきかけているのです。

Q.物語を通して、何を伝えようとしているのでしょうか？

法蔵菩薩の因位の時、世自在王仏の所にましまして、
諸仏の浄土の因、国土人天の善悪を親見して、
無上殊勝の願を建立し、希有の大弘誓を超発せり。

五劫、これを思惟して掬受す。重ねて誓うらくは、名声十方に聞こえんと。

『正信偈』

4 凡夫って何だろう？

「凡夫」は、すなわち、われらなり

『大経』上巻には、すべての者を必ず救うと誓われた阿弥陀仏の本願が説かれています。では、その対象である私たちはどのような在り方をしているのでしょうか？

お寺にお参りして煩惱をなくすとか、除夜の鐘を撞いて煩惱をはらうなどと言われることがあります。

仏教では、煩惱を抱えて生きる人間のことを凡夫と表現してきました。『大経』下巻には、そのような衆生（私たち）の姿がこと細かに説かれています。その中心的な課題として「三毒の煩惱」と言われる根本的な煩惱があげられています。

とんよく
貪欲

(むさぼり求める心)

財産が有る者も無い者も今の自分に満足しない。
どんな者も求め悩む衆生の姿。

しんに
瞋恚

(憎しみ怒る心)

争いの心が起こり、怒り憎むことがある。
その心が大きくなり、お互いに争い合う衆生の姿。

ぐち むみょう
愚癡（無明）

(おろかで事理の分別がないこと)

欲望に惑わされ、怒り憎み苦しんでいる。
愚かさや疑惑におおわれ、そのような自分を見つめることができない衆生の姿。

自己中心的な欲望や執着心を持ちながら、しかもその欲望を抱えていることに気づくことすらできない私たち人間の愚かさが説かれています。

浄土真宗では、煩惱は決して無くならない、煩惱に満ちている身であるからこそ、阿弥陀仏は本願をおこされたのだと教えられます。「どのような者であっても摂め取って決して見捨てることはない」と誓う阿弥陀仏の願いにうなずくところに、煩惱を抱え背きあい生きる私たちに、自他ともに歩む道がひらかれるのです。

凡夫というのは、無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころもおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず
『一念多念文意』

先師の言葉

我必ず^{ひじり}聖に非ず。彼必ず^{あら}愚かに非ず。共に是れ^{ただひと}凡夫ならくのみ。(聖徳太子)

えらばず きらわず みすてず (竹中智秀)

お経（経典）

お釈迦さまの教説は「我聞如是」（我聞きたまえき かくのごとき）と、仏弟子によって口伝に伝承されました。そして語り伝えるなかで文字に起こされ、形づくられたものがお経（経典）です。

ほとんどの経典では、その経典が成立するための六つの事がら（六事）が初めに記されます。いつ、誰が、どこで、誰に向かって説いたものか、それをこのように間違いなく聞きとったという事が示されています。

この六事を満たして初めて説かれることから「六成就^{ろくじょうじゅ}」とも呼ばれます。

『大経』の初めは以下の通りです。

がもん **によぜ** **いちじ** **ぶつ**
「我聞 如是 一時 仏

じゅおうしゃじょうぎしゃくっせんじゅ **よだいびくしゅまんにせんになんく**
住王舎城耆闍崛山中 与大比丘衆万二千人俱……」

われききたまえき **かくのごとき** **ひととき** **ぶつ**
おうしゃじょうぎしゃくっせんのうちじゅうしたまいき
だいびくしゅまんにせんになんとともなりき……

- ①**我聞**（聞成就）：聞かせていただいた
- ②**如是**（信成就）：仏が説かれたことをこのように
- ③**一時**（時成就）：説かれた時
- ④**仏**（主成就）：説いた者
- ⑤**住王舎城耆闍崛山中**（処成就）：説かれた場所
- ⑥**与大比丘衆万二千人俱…**（衆成就）：聴聞者（誰に向かって説かれた）

『大経』は、阿難の問いかけをきっかけとして教えが説かれます。

阿難は侍者としてお釈迦さまに仕え、常に説法を聴いていたことから「多聞第一」と称される仏弟子でした。しかし、阿難はお釈迦さま在世の間には、煩惱を断じ尽くしてさとりを得ることがついにできなかったと言われています。

そのような凡夫である阿難がお釈迦さまに光を見いだしたことから、お釈迦さま個人を超えてはたらく普遍の法が、阿弥陀仏の本願として説き述べられます。ここに、その教えが限られた時の特別な人のためのものではなく、いつでもどのような者にもひらかれたものであることが顕かにされているのでしょう。

メモ